

東洋・日本美術史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
東洋・日本美術史概論	日本絵画史概論	2	杉本 欣久	3	金曜4限
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論	2	長岡 龍作	4	金曜4限
東洋・日本美術史基礎講 読	美術史料基礎購読一変体 がな編	2	杉本 欣久	3	金曜5限
東洋・日本美術史基礎講 読	美術史料基礎購読一漢文 編(『画乗要略』を読む初 級編)	2	杉本 欣久	4	水曜4限
東洋・日本美術史基礎実 習	美術作品の取り扱いと実 践	2	杉本 欣久	3	火曜3限 火曜4限
東洋・日本美術史基礎実 習	美術作品の取り扱いと実 践	2	杉本 欣久	4	火曜3限 火曜4限
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	5	月曜3限
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	水曜3限
東洋・日本美術史各論	信仰と造形	2	長岡 龍作	6	月曜3限
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	水曜3限
東洋・日本美術史各論	霊獣表現のルーツを探る	2	植村 慎	5	集中講義
東洋・日本美術史講読	作品観察実践論一美術資 料を読む	2	杉本 欣久	5	木曜2限
東洋・日本美術史講読	美術史料講読一漢文編 (『画乗要略』を読む中級 編)	2	杉本 欣久	6	木曜2限
東洋・日本美術史演習	美術作品研究演習	2	杉本 欣久	5	火曜2限
東洋・日本美術史演習	美術作品研究演習	2	杉本 欣久	6	火曜2限

科目名：東洋・日本美術史概論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35403, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本絵画史概論

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。

一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1 ー
- 3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2 ー
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー
- 5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー
- 6 回目 平安京の思想と美術 一陰陽五行と鬼門ー
- 7 回目 鎮護国家の美術 一平安時代 1 ー
- 8 回目 浄土教の美術 一平安時代 2 ー
- 9 回目 地獄絵と六道の絵画一平安時代 3 ー
- 10 回目 平安四大絵巻一平安時代 4 ー
- 11 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1 ー
- 12 回目 蓬萊山の美術・そして富士山へ 一画題研究 4 ー
- 13 回目 禅の興隆と道釈人物画一室町時代 2 ー
- 14 回目 禅の興隆と水墨山水画一室町時代 3 ー
- 15 回目 登龍門・鯉が龍になるまで一画題研究 5 ー

5. 成績評価方法：【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画ー中国絵画の受容と文人精神の展開一』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史概論

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：長岡 龍作

コード：LB45402, **科目ナンバリング：**LHM-ART201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現

2・授業の目的と概要：古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。
(2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。
(3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンス
2. インTRODakション—法隆寺の美術
3. 薬師如来像に見る神仙思想
4. 東大寺と大仏の世界
5. 補陀落山観音の世界
6. 空海登場—密教がもたらしたもの
7. 釈迦如来の再生—清涼寺釈迦如来像がやってきた
8. 阿弥陀如来の再生—平等院鳳凰堂と中尊寺金色堂
9. 仏の世界はどこにある？—風景画の宗教的意味
10. 東大寺復興—重源の目指したこと
11. 五台山文殊の世界
12. 春日の神様と本地仏
13. 生身地藏の世界
14. 毘盧舎那仏と大日如来—明恵の描いた世界観
15. 見えない世界との交流をかなえる美術

5. 成績評価方法：課題 [30%]、出席 [70%]

6. 教科書および参考書：参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年

7. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史基礎講読

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35502, **科目ナンバリング：**LHM-ART204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術史料基礎講読―変体がな編

2・授業の目的と概要： 日本における歴史資料の原典は肉筆で書かれており、活字で出版された現代の本を見るだけでは不十分な場合が多い。なぜなら読み間違いやミスプリントが多々存在するからである。研究を確かなものとするためには原典資料にあたることは不可欠だが、そのためには古文書やくずし字、変体がなを読む訓練を経なければならない。

そこで本講では、日本近世絵画史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『名所図会』をはじめとした版本および実作品に付された賛文の基礎を学び、最低限の目標として浮世絵に付された変体がなは読めるようにしたい。

また、内容に即して日本文化の淵源となる基礎的知識を学んでいく。

他専修生の受講生も歓迎するので、ぜひこの機会に歴史資料にアクセルするスキルを高めていただきたい。

3. 学習の到達目標：美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 江戸時代の版本を読む

9 回～14 回 実作品に付された賛を読む

15 回 読解テスト

5. 成績評価方法：授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

7. 授業時間外学習：授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎講読

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB43405, **科目ナンバリング：**LHM-ART204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術史料基礎講読一漢文編(『画乗要略』を読む初級編)

2・授業の目的と概要： 美術史という学問においては、まず作品を観察して情報を読み取り、分析することから始めなければならないのは言うまでもない。ただ、制作者の人生や思想を知ることなしに、作品を正しく解釈するのが難しいのも一方の事実である。それゆえ、作品資料と文献資料を車の両輪のごとく用い、単なる印象批評に終始しないよう歴史学として正しい手続きを踏む必要がある。とはいえ、およそ日本の歴史資料はその半分以上が漢文で書かれており、それらを紐解いて正しく解釈していくうえでは、高等学校まで学んできた漢文の教育のみでは不十分であり、ほとんど歯がたたないといっても過言ではない。

そこで本授業では、改めて漢文を読みこなしていくための基礎を学ぶことも含め、室町から江戸時代にかけての画家研究に欠くことのできない『画乗要略』という資料を講読していく。『画乗要略』とは、京都で活躍した画家・岸駒(1749～1838)の門人である白井華陽(?～1836)により、天保 3 年(1832)に著された画人伝である。室町時代の土佐光信や雪舟から江戸後期に至るまでおよそ 400 人を収録し、画家の事績を調べる際には必ず手にとるべき基礎資料となっている。

毎回、ひとりの受講生が一画家を担当し、本書の内容を読み下すとともに現代語訳を発表する。それとともに、その画家の絵画作品を画像を掲示し、他に文献資料がある場合にはその内容も紹介することとする。

3. 学習の到達目標：漢文に対する認識を高め、読解のためのスキルを養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

毎回、受講生が担当部分について調べたことを発表する。質疑応答の時間も設ける。

5. 成績評価方法：十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編(小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

7. 授業時間外学習：受講生の全員が、次回に発表される該当箇所の予習を行なっておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習

曜日・講時：火曜3限、火曜4限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB32306, **科目ナンバリング：**LHM-ART205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術作品の取り扱いと実践

2・授業の目的と概要：素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
2. 展示についての考え方と実践
3. 美術作品についての発表

3. 学習の到達目標：美術の取り扱い、調査、展示についての基礎的な技術を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。

ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

この科目ではClassroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス
2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
4. 「掛軸」の基礎と取り扱い1
5. 「掛軸」の基礎と取り扱い2
6. 「屏風」の基礎と取り扱い1
7. 「屏風」の基礎と取り扱い2
8. 篆書(ハンコ)を読む
9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
11. 「仏像」の基礎と取り扱い
12. カメラの撮影と画像の使用
13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
14. 博物館・美術館見学
15. 取り扱い復習

5. 成績評価方法：出席 [80%]・授業態度 [20%]

6. 教科書および参考書：資料はその都度配布する。

7. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習もあわせて履修することが望ましい。

実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

基本的にグループ学習であることから、人とのコミュニケーションが必要となる。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB42306, **科目ナンバリング：**LHM-ART205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術作品の取り扱いと実践

2・授業の目的と概要：前期からの引き続きとなる本授業では、美術館博物館における展覧会の実際を学ぶことを目標とするため、授業は以下の内容で進める。

1. 調書の作成—実際の作品を用いた調査を行う
2. 展覧会の解説を読む—展覧会の解説に必要な情報とは何かを学ぶ
3. 展覧会をつくる—図書館の多目的室を使用し、江戸時代の絵画 50 点前後を陳列する展覧会を行う

3. 学習の到達目標：美術館博物館の主要事業である展覧会の業務を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 博物館・美術館見学
2. 調書の作成 1—作品観察編
3. 書の作成 2—実作品を調査する 1
4. 調書の作成 3—実作品を調査する 2
5. 解説を読む 1
6. 解説を読む 2
7. 展覧会をつくる 1—構想から作品選択まで 1
8. 展覧会をつくる 2—構想から作品選択まで 2
9. 展覧会をつくる 3—展覧会のプレゼンおよび決定
10. 展覧会をつくる 4—フライヤーとポスターの作成
11. 展覧会の裏側「展示」を考える—実地学習・藤崎一
12. 展覧会をつくる 4—解説を書く 1
13. 展覧会をつくる 5—解説を書く 2
14. 展覧会をつくる 6—解説を書く 3 (キャプション作成)
15. 展覧会をつくる 7—展示作業

5. 成績評価方法：出席 [80%]・授業態度 [20%]

6. 教科書および参考書：資料はその都度配布する。

7. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

4 セメ (後期) のみの受講は認めない。必ず 3 セメ (前期) の東洋・日本美術史基礎実習も履修すること。実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：長岡 龍作

コード：LB51304, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術と宗教思想

2・授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、仏教の世界観とそれを表象することの意義を述べた後、飛鳥寺代から平安時代までの仏教的世界観とそれを表象する美術について論じる。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
(2) 造形に投影された世界観を理解する。
(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション：仏教の世界観とその表象
2. 飛鳥時代前期の仏教的世界観と美術
3. 飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏教的世界観と美術
4. 奈良時代の仏教的世界観と美術 1
5. 奈良時代の仏教的世界観と美術 2
6. 奈良時代の仏教的世界観と美術 3
7. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 1
8. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 2
9. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 3
10. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 4
11. 平安時代摂関期の仏教的世界観と美術 1
12. 平安時代摂関期の仏教的世界観と美術 2
13. 平安時代摂関期・院政期の仏教的世界観と美術 1
14. 平安時代摂関期・院政期の仏教的世界観と美術 2

5. 成績評価方法：レポート [50%]、出席 [50%]

6. 教科書および参考書：参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像―祈りと風景』（敬文舎）2014 年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021 年

7. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本近世美術史

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 2 回目 狩野派の系譜 1—御用絵師・正信から元信へ
- 3 回目 狩野派の系譜 2—永徳と桃山の大家
- 4 回目 狩野派の系譜 3—探幽と江戸狩野の確立
- 5 回目 8 代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 6 回目 英一蝶と英派の絵画
- 7 回目 京の町絵師 1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 8 回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山
- 9 回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山
- 10 回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 11 回目 武士の絵画 1—鑑戒
- 12 回目 武士の絵画 2—暢神
- 13 回目 対外交渉と長崎派
- 14 回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派
- 15 回目 美術史と鑑定

5. 成績評価方法： 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何

を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくとい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：長岡 龍作

コード：LB61303, **科目ナンバリング：**LHM-ART301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術と宗教思想

2・授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と深く関わる北宋時代の美術を紹介した後、鎌倉時代の宗教美術について、代表的な僧侶の思想を踏まえた観点から論じていく。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。
(2) 造形に投影された世界観を理解する。
(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イン트로ダクション
2. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像
3. 奄然の入宋と五台山文殊菩薩像
4. 北宋・遼美術の諸相—盧舎那仏・釈迦如来・五百羅漢
5. 北宋・遼美術と日本
6. 盧舎那仏と観音—奈良時代と鎌倉時代
7. 盧舎那仏と阿弥陀—重源の思想と美術
8. 笠置寺の美術—貞慶の思想と美術
9. 経蔵と文殊菩薩像
10. 仏像の納入品と重源の思想
11. 春日信仰と美術
12. 東国の生身仏像
13. 明恵の思想と高山寺の美術
14. 叡尊と忍性の思想と美術
15. 華嚴思想と美術

5. 成績評価方法：レポート [50%]、出席 [50%]

6. 教科書および参考書：参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

7. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べる

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB63303, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本近世美術史

2・授業の目的と概要： 美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営みや精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陆や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

3. 学習の到達目標： 歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡（鑑）」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器（プロジェクター）を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 2 回目 刀装具と鐔の意匠性
- 3 回目 江戸と浮世絵 1 一師宣・祐信・春信一
- 4 回目 江戸と浮世絵 2 一蔦屋重三郎と写楽・歌麿一
- 5 回目 江戸と浮世絵 3 一北斎・広重一
- 6 回目 京都と円山派 1 一円山応挙一
- 7 回目 京都と円山派 2 一応挙の門人たち一
- 8 回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一
- 9 回目 天下の台所・大坂の絵画
- 10 回目 近江商人の絵画と北関東への伝播
- 11 回目 江戸の絵画 1 一18 世紀の絵画状況（谷文晁の登場前夜）
- 12 回目 江戸の絵画 2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 13 回目 伊藤若冲 一その真実を探る
- 14 回目 東北の絵画一美術史の問題と研究の可能性

5. 成績評価方法： 授業ごとに 400 字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1 週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

杉本欣久『武士の絵画―中国絵画の受容と文人精神の展開―』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 19

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：植村 慎

コード：LB98811, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：霊獣表現のルーツを探る

2・授業の目的と概要：古代中国において、龍や鳳凰に代表される霊獣は、宇宙観の形成や山岳信仰・昇仙思想の高まりなど、儒家や道家の思想の展開を背景に、時代・王朝によって異なる姿を見せてきた。
この講義では、唐代以降の中国や、中・近世の日本の美術作品の題材となる霊獣が、先史～古代にはどのような姿で描かれ、そこにはどのような思想が込められていたのか、霊獣表現のルーツを探り、またその変遷観を構築することを目的とする。

3. 学習の到達目標：霊獣表現のルーツを探り、またその変遷観を構築することを目的とする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 霊獣のルーツを探る方法 1 -図像学
3. 霊獣のルーツを探る方法 2 -型式学
4. 霊獣に付随する表現 1 -山岳
5. 霊獣に付随する表現 2 -雲気
6. 四霊のルーツ 1 -龍と鳳凰
7. 四霊のルーツ 2 -鳳凰と麒麟
8. 四霊のルーツ 3 -鳳凰と亀
9. 四神の世界 1 -鳳凰から朱雀へ
10. 四神の世界 2 -玄武と北辰の神々
11. 四神の世界 3 -相対する龍・虎
12. 仙岳と神獣 1 -崑崙の西王母と鳳凰
13. 仙岳と神獣 2 -蓬萊と鶴・亀
14. 西域の奇獣 -獅子と符拔
15. 子孫繁栄の象徴 -双魚と鯉

5. 成績評価方法：レポート（70%）、講義への参加態度（小課題含む、30%）

6. 教科書および参考書：石谷 慎『秦漢遺宝 -器物に込めた願い』（黒川古文化研究所・研究図録シリーズ6、2019年）

岡村秀典『鏡が語る古代史』（岩波新書、2017年）

林巳奈夫『中国古代の神がみ』（吉川弘文館、2002年）

山本堯・実方葉子『瑞獣伝来 -空想動物でめぐる東アジア三千年の旅』（泉屋博古館、2020年）

渡辺素舟『東洋文様史』（富山房、1971年）

7. 授業時間外学習：博物館・美術館の展示を訪れる際、あるいは展示図録を見る際には、霊獣表現に注意し、細部まで観察する習慣を身につけることが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史講読

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB54211, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：作品観察実践論—美術資料を読む

2・授業の目的と概要： 本講は本当の意味での「美術鑑賞」を行うための実践的授業で、講師の近著である『鑑定学への招待』に書いた内容を実際に行う。つまり、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」する。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかないとい一般的には思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれたり、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのように規定してしまえば「教育」の余地が失われることになってしまう。けれども、多くの人がそれを「実感」し、共有するためには「教育」が不可欠である。

そこで本講では同じようにみえる類似した 2 作品を提示し、その中に存在する相違点を見出して指摘、発表していく実習形式をとる。作品比較を続けていけば、やがて「どちらが良い線か」「どちらが上手いか」などの「認識」が育まれてくる。

これは美術史研究にとって不可欠な「スキル」であり、その先に「真贋」の判別にも必要な「鑑識眼」の獲得に結びつくのは言うまでもない。

毎回、他学部や他専修の受講生も参加しており、この論理性を重視する方法論はどのような学問にも有効と考える。未開発の能力が開花する可能性もあるため、美術史を専門としない学生の受講も歓迎する。

3. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

予習で行なってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は講師が作品について論じる。以下におおよその内容を示しておく。

1 回目 ガイダンス

2 回目 絵画

3 回目 刀装具

4 回目 絵画

5 回目 刀装具

6 回目 絵画

7 回目 和鏡

8 回目 絵画

9 回目 和鏡

10 回目 絵画

11 回目 陶磁器

12 回目 絵画

13 回目 受講生による作品の比較発表

14 回目 受講生による作品の比較発表

15 回目 受講生による作品の比較発表

5. 成績評価方法： 事前にクラスルームに掲げる画像を予習として分析しておき、授業当日に行う質疑内容によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）
『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）
『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）
『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）
『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）
『日本美

7. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観えていて何が観えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくといよい。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史講読

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：美術史料講読—漢文編（『画乗要略』を読む中級編）

2・授業の目的と概要： 美術史という学問においては、まず作品を観察して情報を読み取り、分析することから始めなければならないのは言うまでもない。ただ、制作者の人生そのや思想を知ることなしに、作品を正しく解釈するのが難しいのも一方の事実である。それゆえ、作品資料と文献資料を車の両輪のごとく用い、単なる印象批評に終始しないよう歴史学として正しい手続きを踏む必要がある。とはいえ、およそ日本の歴史資料はその半分以上が漢文で書かれており、それらを紐解いて正しく解釈していくうえでは、高等学校まで学んできた漢文の教育のみでは不十分であり、ほとんど歯がたたないといっても過言ではない。

そこで本授業では、改めて漢文を読みこなしていくための基礎を学ぶことも含め、室町から江戸時代にかけての画家研究に欠くことのできない『画乗要略』という資料を講読していく。『画乗要略』とは、京都で活躍した画家・岸駒(1749～1838)の門人である白井華陽(?～1836)により、天保 3 年(1832)に著された画人伝である。室町時代の土佐光信や雪舟から江戸後期に至るまでおよそ 400 人を収録し、画家の事績を調べる際には必ず手にとるべき基礎資料となっている。

毎回、ひとりの受講生が一画家を担当し、本書の内容を読み下すとともに現代語訳を発表する。それとともに、他に文献資料がある場合にはその内容も紹介することとする。

3. 学習の到達目標：漢文に対する認識を高め、読解のためのスキルを養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、受講生が担当部分について調べたことを発表する。質疑応答の時間も設ける。

5. 成績評価方法：成績は発表と出席率に基づいて決定される。

6. 教科書および参考書：【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

7. 授業時間外学習：受講生の全員が、次回に発表される該当箇所の予習を行なっておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB52206, **科目ナンバリング：**LHM-ART305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術作品研究演習

2・授業の目的と概要：毎回、1 名が東洋または日本の美術作品の中から特に興味を覚えたものを選び、口頭で発表をおこなう。自分が設定した問題について、作品そのものを十分に観察したうえで考察を行う。その作品について先行研究がある場合には、まず研究の歴史を十分に回顧する。先行研究が少ない場合は、自らが作品に関する基礎資料や関連資料を探し、精読し、整理を行う。発表者は、出席者に対して自らの考え方を的確に伝えるように努める。

3. 学習の到達目標：参加者は、美術史の基礎である作品の分析方法を学び、それを自らの考えとしての的確に他者に伝える技術を獲得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. インTRODakションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（4 年次学生）ならびに討論

5. 成績評価方法：出席 [50%]・発表態度 [50%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：東洋・日本美術史演習

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB62207, **科目ナンバリング：**LHM-ART305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術作品研究演習

2・授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博搜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

3. 学習の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

5. 成績評価方法：出席 [50%]・発表態度 [50%]

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：